

「命を守るために」～次世代を担う私たちができること～  
生徒保健委員会活動より

高知県立須崎高等学校養護教諭 保川 治美

須崎高校生徒保健委員会では、「命を守るために～次世代を担う私たちにできること」をテーマに防災・減災に関する活動を行っている。須崎高校は、須崎市新荘川沿いにあり、海拔4メートルである。南海地震が発生すれば、津波が海からと新荘川を朔上して押し寄せ、浸水すると予想されている。

平成21年度から、生徒保健委員会で行っていた校内安全点検をきっかけに、近い将来必ず起こるとされている南海地震に対する活動を始めた。生徒・教職員それぞれが「命を守ること」への意識をしっかりと持ち、震災時にはその知識と技能が活かせるようにと救急法講習会も学校主導型の講習会（講習会で核となる生徒・教職員を養成し、講習会では指導者となる）に切り替えるなど、自分たちができるところからやっっていこうと徐々に活動を広げてきた。

しかし、3月11日に起こった東日本大震災の甚大な被害、被災地の状況は自分たちの想像を超え、それまでの活動に大きな問題を投げかけた。「想定外」、新聞及びテレビで何度も見た文字が浮かぶ。須崎市は指定避難所の見直しを他の市町村に先がけて始めた。須崎高校は津波襲来に対して、校舎4階への避

難となっていたが、今回の震災で見直しを行う必要があるのではないかという声上がる。生徒からも「避難訓練いつするが?」「4階じゃ無理やろう」という問いかけが多くなった。

そこで、平成23年4月から生徒保健委員会はさっそく新しい避難経路と避難場所の検討に入った。地元地域の岡本地区の地区長、自主防災組織会長、防災ボランティアリーダーの方々の先導によるフィールドワークを6月に実施。運動部の生徒、教員の参加もあり総勢30名が参加した。生徒たちも、震災の後で、より早く、より高い避難道と避難場所を探そうと真剣だった。山の中の急な斜面を上る経路は、海拔20メートル付近へ行くのがやっとなのでその先はシダや木々が生い茂り、須崎市斎場のある頂上に進むことは断念した。一部教職員と地域の方々は頂上まで進んだ。須崎市斎場は今後指定避難所になりうる場所で海拔80メートルに位置している。

予定を変更し、別の避難経路(舗装道路)から同じく須崎斎場を目指した。しかし、津波の来る方向へ逃げることに、須崎市斎場への上がり口付近は海拔0メートルで、過去に津波が押し寄せた場所を通過することへの不安な声上がる。最初の避難経路が最短で避難で

きるルートではあるが、道幅が狭く急で、避難時にはパニックが起こり、転げ落ちることもあるのではと保健委員からも意見が出された。新避難経路及び避難場所については、本校が毎年7月に行っている南海地震フォーラムにて保健委員より現状と課題が報告された。ほどなくして、岡本地区の方々、整備を進めて下さり、また学校も地区と一緒に須崎市に避難道整備の陳情を行った。

10月18日にこの避難道を使って避難訓練も行い、課題は見つかったが、最短の避難道を確保できた。生徒も真剣に取り組み、避難訓練後に行ったアンケートでは、「避難経路や避難場所が分かってよかった。」「山道が急で狭い。お年寄りや妊婦さんは上がれないから整備が必要。」「一つのルートでは足りない。地域の人でも逃げてくるから、他にも避難経路を作るべき」という具体的な改善策の回答が多数あった。生徒たちの津波に対する避難への意識がかなり高まっており、自分はもちろんのこと、地域の方や保育園児・小学生・中学生や、災害時要援護者への配慮までを考えるようになってきている。この地区での新しい避難道は現在3か所検討されており、それぞれ小学校や保育園などの避難経路になる予定である。今後、須崎市から正式に指定避難道として認定されれば、各避難道入り口に保健委員会が看板を作成する予定である。これは、日頃から、この看板を目にすることで、地震発生時の避難行動がスムーズにいくように啓発するとともに、地震発生時にパニックにならないよう、看板を目印に迷わず避難できるようにするために建てるものである。地域の方も賛同して下さり、一体となって南海地震対策を進めている。

予想される南海地震発生時には、今の高校

生たちは各地域のリーダーとなるぐらいの年齢に達している。その時に最前線で動ける人間として必要な知識・技術を学んでおいてほしいと願う。現在は、災害時に便利なグッズづくりを行っている。10月の2日間、日本赤十字高知県支部の救急指導員の方を講師に招いて、災害時における応急手当、救援物資が来るまでに必要な物品について学び、限られた資材の中で手作りする方法を指導していただいた。これから、自分たちで創意工夫を重ね、使用後の処理までを考えた災害時の便利グッズを作成する。11月3日に開催される文化祭では一般公開し、校内の生徒・教職員だけでなく来校していただいた方々にも見てもらい、防災・減災を考える1日にしたいと思っている。

今後あらゆる機会・場面で、「命を守る」＝そのために「できることからやる」という観点で各自が防災・減災に関して主体的に考え取り組むことができるように活動をすすめていきたい。